

8th Ikusei

第72号

令和8年3月5日



ラビュー快適!

発行：豊島区第8地区青少年育成委員会 会長：西島広幸

雪の降る中、名言続出の盛りだくさんツアー

ラビューに乗ってイチゴ狩り シイタケ狩り・うどん打ち体験

体験イベント 令和8年2月8日(日曜日)

朝 起きると都心でさえ一面の雪景色。そんな寒さ厳しい中でツアーはスタートしました。動き出したラビューの車窓から見える眺めも白一色、でも車内はおやつをパクつく子どもたちの賑やかな声で溢れます。

今日1日を過ごす「小松沢レジャー農園」に到着すると、まずはビニールハウス内で食べ放題のいちご狩り。「紅ほっぺ」「やよいひめ」が植えられた畝を行ったり来たりしながら、ヘタの部分まで真っ赤に熟したイチゴを摘んで頬張ります。

「ミツバチみたいな味がする」

ハチミツでなくて? 「ううん、ミツバチ」。子どもの感性が光るひと言でした。

子どもたちの人気はやよいひめにやや軍配。歴代最高120個(!)を食べた女の子も現れました。

さて続いては小屋へ移動してうどん打ち。まずは地粉に塩水を混ぜ、こねて生地を作っていきます。力仕事はチームで協力。こねた後、生地を寝かせている間に、シイタケ狩りをする原木栽培の場所までやってきました。木からシイタケがニョキニョキ生えている様子はなかなか見ることのできない光景。カサが大きく開いたものを探しては石突きをつまんで採取します。

「ここカブトムシの匂いがするね」

虫好きの男の子の原体験がそんな感想を抱かせたのでしょう。袋にたっぷり入った肉厚なシイタケを計量してもらい、お土産に持ち帰りです。

再びうどん小屋へ戻り、寝かせた生地を



採ったど〜



うんしょ、うんしょ

台の上で麺棒を使って延ばしていきます。これもなかなか力とコツの要る作業。農園の方にお手本を見せてもらい、打ち粉をしながらチームワークで進めていきます。

さて延ばし終えたらうどん切り。木を当てて専用の包丁で切る工程も個性さまざまです。慎重にゆっくり同じ太さを目指す子もいれば、細麺太麺バラバラでもどンドン切り進める子どもも……。やがて茹で上がったうどんを食べる場所は、広すぎてストーブ熱も届きにくい冷え冷えの食卓。

「寒さで爪が割れる〜」

ーなんて声も聞かれましたが、自分たちで作ったうどんは美味しさもひとしお。お腹いっぱい食べて大満足の昼食でした。

盛りだくさんに体験したツアーも終盤。最寄駅まで送ってくれる農園の送迎バスを待つ間、大人たちが薪ストーブから離れられない一方で、子どもたちの間では雪合戦が始まってました。また来ようね。

(育成委員・増田祐二)



慎重に...



いただきます





実際にトイレに座ってみる体験を通じて、子どもたちに避難生活を想像してもらいました



みんなでカレーを作って、「いただきます〜！」

「わいわい防災キャンプ」 "不便"を体験し、 "備える"を学ぶ1日

豊島区民社会福祉協議会助成事業
令和7年10月4日～5日（土曜日・日曜日） 於：ふるさと千川



左：日が暮れて、「さあ、花火を始めるよ」／右：お泊まり組用の夜食は焼きそばだよ〜

今年度の防災キャンプは、雨が曇りか悩ましい天気の中、苦渋の決断で「雨天用プログラム」での実施となりました。

開村式に続く防災の話では、非常時のトイレ問題がテーマに。特に「マンホールトイレ」の説明では、初めて見る子どもも多く興味津々。実際にトイレに座ってみる体験コーナーでは、列ができるほどの人気ぶりでした。残念ながら屋外での体験は叶いませんでしたが、「体験があることで、いざという時に戸惑わずに行動できる」との声もありました。

学びの後にはカレー作り。慣れないながらも包丁やピーラーを使い、全員で下ごしらえを頑張りました。カレーのできあがりを待つ間は班対抗の総当たりじゃんけん大会。ここでは大人も子どもも本気モードで会場は大盛り上がりでした。

疲れた後は待ちに待ったカレータイム！「おいしい！」と笑顔がたくさんこぼれます。

夜になると、日帰り組にとってはキャンププログラム最後のお楽しみとなる花火タイム。消火バケツをしっかりと用

意して、キレイな花火にあちこちで歓声があがっていました。

日帰り組が解散となった後は、お泊まり組は自作のダンボールハウス作り。シンプルだけど快適そうな部屋、飾り付けまでこだわった部屋、上に積み上げ過ぎて一度崩れてしまった部屋も……。それでもみんな、それぞれの「理想の避難所」を完成させました。

翌朝はみんなで協力してダンボールを片付け、元気にラジオ体操でスタート。ラジオ体操後は、委員による特別太極拳講座で心も体もリフレッシュ。子どもたちは意外と上手に動けていました。

参加した子どもたちからは「楽しかった！」「また来たい！」という声が多く聞かれた一方、「毎年同じようなことではなく、何か違うこともしたい」という素直な意見も。これについて、委員からこう伝えました。

「楽しさを追求すると際限がなくなってしまうけれど、防災キャンプの本当の趣旨は、限られた時間・場所・モノの中で、いかに"不便"を"少しでも快適"に変えていくかを体験すること」この答えを探すことこそが、まさに



お泊まり組はダンボールで寝床づくり
子どもたちの感性が光る、
いろんなハウスが出来上がりました

【ご協力ありがとうございました】

◎ダンボール提供
「BIG引越センター」(千川)
フリーダイヤル 0120-111-803



◎薪用木材提供
「有限会社川田工務店」(千早)
03-3957-5169

防災の第1歩なのかもしれません。
今回の経験が、家庭で災害時の備蓄や過ごし方について話すきっかけになってくれたら、私たち委員としても何よりです。
(千早小 PTA 選出育成委員・迫 江里奈)



8th Ikusei

被災した時、食材を効率よく使う大切さを学んだり、避難生活を想定したクイズに答えたり……の防災学習



ロボットと暮らす未来を想像してみました



ゆりかもめ



防災体験と科学学習ができる2つのテーマ館を巡ったツアー

『そなエリア東京』



『日本科学未来館』



施設見学イベント 令和7年11月16日(日曜日)

11月中旬にしては穏やかな陽気の中、「施設見学ツアー」は千川駅から定刻に出発しました。参加した子どもたちはとても元気で、かわいい笑顔をふりまきながら、楽しそうに行動していました。

最初に「そなエリア東京」に到着し、早速「東京直下72hツアー」に参加しました。これは外出先で最大震度7の首都直下地震に被災し、最初の3日間をいかに生き延びるか——を体験する防災ツアーです。

タブレットを片手に、非常に大掛かりでリアルな被災した街並みを再現したセットの中で、クイズ形式で生き抜くために必要な知識を身に着けるという仕掛け。これには大人も子どもも夢中になって1つ1つの問題に取り組んでいきました。そこを抜けると次は、防災や被災した後に役立つ様々な知識や情報およびグッズの展示のスペース。個人的に日を改めて再訪し、展示物など様々な情報を1日かけてしっか

り学習したいと思ったほど。また、ここには映画「シン・ゴジラ」の撮影で使われたオペレーションルームがあり、非常に感激しました。屋上には庭園もあって、体験学習と展示を見終わった子供たちは、元気いっぱい走り回っていました。

次に訪れた「日本科学未来館」では、施設のシンボルである巨大な「ジオ・コスモス」に迎えられ、まずは館内でお楽しみのランチタイム。みんなで食べた「唐揚げ弁当」は、子どもたちの半数以上から「美味しかった！」の感想をいただきました。

お腹いっぱいになった後は、科学のあれやこれやを遊びながらの体験タイム。様々なロボットや量子コンピューター、「古い」がテーマの展示やロケットエンジン、細胞の研究や環境問題の展示など、科学と言っても非常に多岐にわたる内容の展示や体験コーナーがありました。特に子供たちに大人気だったのが、ロボットと生きる未来の

社会を考える体験型の展示「ナナイロクエスト」。これは、“ロボットが友達になったら？ 自分の仕事をロボットが代わってくれるとしたら？ 身体の一部がロボットになって新しい能力が手に入ったら？ ナナイロシティの住民たちとの出会いを通して、ロボットとくらす未来の日常を想像してみてください”というコンセプトの常設展示です。

さて、ランチやいろいろな展示・体験はもちろん、お土産探しも欠かせない楽しみ。1階にある売店で自分やお家の方へ何を買って帰ろうか……限られたお小遣いの中で、みんな悩みながら品物を選んでいました。

「楽しかった！」

「また行きたい！」

笑顔いっぱいの感想をもらい、育成委員としてとても嬉しく思いました。

次回も子供たちの為になるイベントをやっつけていこうと思っています。

(育成委員：岸波邦光)

【出席】山本英行校長／第7・第8各地区育成委員
「みらいトーク」メンバー 明豊中2年・3年生

豊 島区教育委員会研究開発指定校として、明豊中では生徒自らが運営して第7育成と第8育成との連携を通じて育成行事の取り組みと意義を知り、地域社会貢献意識へとつなげる活動を推進しています。これは、同校がSDGsの基本理念「人とのつながり」を大切に自分で考え行動する実践力をもち、社会人としての力を育成するという目的に沿ったもので、本懇談会もこの考えに基づき昨年に続いて開催されました。

当日の懇談会では、これまで小中学生地域連携を進めてきた生徒たちで構成された「みらいトーク」メンバーたちを交えたグループディスカッションを行い、各地区育成委員2名と司会・記録・発表を担当するメンバー生徒4名からなる1グループ×5班ごとに地域貢献についての意見交換を行いました。

例えば、生徒の中には「社会を明るくする運動」の活動について第7育成の『鼓笛隊パレード』が相当していると理解している一方で、第8育成の『ハチハチ祭り』がそれに該当することを知らず、グループディスカッションを通じて改めて知るきっかけとなっていました。同時に育成イベントに際してボランティアとして協力参加する興味や意欲もメンバーたちから聞かれました。

そのほか、仕事などで大人たちが地元を離れていることが多い昼間の時間帯、地域内に残る自分たちこそ「もっと地域を支えることができるのでは?」という気づきや、そのためにも地域のことを「知っておくことの大切さ」を感じ取り、町会で行っている地域清掃(ゴミゼロデー)への



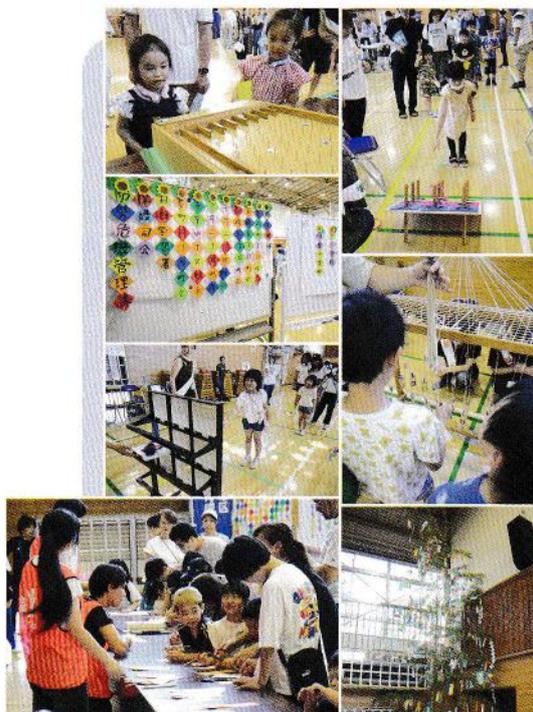
◀▲グループに分かれ、地域貢献や地域交流について話し合いました。司会や記録も生徒の役割

▶グループディスカッションをした後は、グループごとに発表を行いました



積極参加や、明豊中で2町会が合同で行った防災訓練の概要を聞くことで防災拠点や防災トイレなどの設備所在、備蓄倉庫の場所や中身といった新しい知識を身につける機会となりました。

こうしたディスカッションが奏功して、後日開催された『ハチハチ祭り』には明豊中から大勢の生徒たちがお手伝いに来てくれたほか(下段記事参照)、『わいわい防災キャンプ』でもボランティア参加の生徒を迎えることができました。第8育成では、今後も活動を通じて世代間を超えた共助の重要性を伝えていければと考えています。



◀子どもたちはゲームに夢中。あちこちで歓声が上がっていました

令和7年7月13日(日曜日) 於:千早小学校 体育館 ◎参加者=児童・保護者ほか、計564名
中高生ボランティアが大勢参加してくれた「ハチハチ祭り」

“神様”から“がんばり屋”まで、5種ゲームの総合得点によって与えられる称号により、もらえる賞品の数が変わる「ハチハチ祭り」。猛暑対策として冷房の効いた体育館をお借りし、混雑緩和のために受付時間を2回に分けて実施、合わせて500人を超える参加者が訪れる盛況ぶりでした。

5種類のゲームに挑む前に、子どもたちはまず、七夕の短冊に願い事を書きます。その子どもたちの誘導や七夕の飾り付けに、今回は中高生ボランティアの生徒たちが大活躍してくれました。合計26名で協力参加してくれた生徒たちは、射的ゲームのお店番も担当、中には小学生時代に第8育成イベントの常連だった生徒もいて、育成委員にとっても嬉しい再会でした。

地域の町会や団体から協賛支援をいただ

き、豊島区長ならびに子ども若者課長をはじめ、各学校長や先生方、各町会長、豊島保護司会副会長など来賓の皆さまのお顔も見えて、地域連携の深さを改めて感じる場となりました。

▼七夕の飾り付けや射的ゲームのお店番に協力してくれた中高生ボランティアの生徒たち

